

近代化遺産 ～その景観と空間の新しい可能性



近畿大学理工学部 社会環境工学科
景観工学研究室 講師
岡田 昌彰
91 土木卒 94 土木修 96 社工博

1. 社会のとらえる産業空間

(1)産業遺産 (2)産業観光 (3)芸術的空間



図-1 近代化遺産とテクノスケープ

(左上から、堺市揚水風車, 金沢市末浄水場, 相模原高架調節池)

2. 芸術のとらえる産業景観：2つの視点

(1)富の象徴(近代化礼賛の記号) / 工業都市の原風景
(2)カタチの面白さ (新造形美の視点)



図-2 テクノスケープ評価に対する2つの価値観
左) Sheeler "Classic Landscape" (1929)
右) 牛島憲之 "クレーンのある風景" (1950)

3. 対峙の景観論

表-1 芸術における二元対峙の美学

二元対峙のみられる美学		二元対峙の効果
詩的 言語論	言語異化	意味の曖昧化・詩情
	日本古典詩	視覚的特徴の顕在化・印象の深化
近代絵画 近代写真	キュビズム	特異・異様な美, ユーモアの創出
	デペイズマン	非日常・異次元感覚の創出
ランドアート		自然の顕在化・神格・偶像性の創出
日本庭園		差異の顕在化
いきの美学		「いき」の創出
総括		・構成二元の特徴顕在化 ・意味の曖昧化 ・新しい意味の生成(超越感覚・偶像感覚・ユーモア)

4. 近代化遺産～“重層”による対峙景観の可能性



図-3
名古屋市旧稲葉地配水塔
(現・演劇練習館)

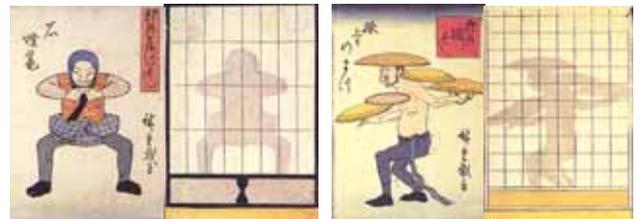


図-4 「見立て」の美学～広重「即興陰ぼし尽し」(江戸時代)「石燈籠」及び「根上がりの松」

5. テクノスケープにおける対峙景観の可能性



【関連文献】
 岡田昌彰(2003)テクノスケープ:同化と異化の景観論, 鹿島出版会
 岡田昌彰(2006)テクノスケープ・リノベーションの意味論的研究, 日本造園学会ランドスケープ研究Vol.1.69 No.5
 岡田昌彰・堀繁(2003) テクノスケープ・レトリック論としての二元対峙景観に関する研究, 日本造園学会ランドスケープ研究Vol.66 No.5
 花畑保志・岡田昌彰(2006) 堺市灌漑用風車の系譜と現況に関する研究, 土木学会土木史研究論文集Vol.25
 岡田昌彰(2003) 金沢市末浄水場の空間構成とその利用に関する研究, 土木学会土木史研究論文集Vol.23